クラシックとの曲似？

根室市外三郡医師会
町立別海病院
山内　修（やまうち　おさむ）

先日、ボ〜っとNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」を観ていました。テーマ音楽が流れ出したときに、「あれっ、この音とリズムは聴いたことある」と思いました。舞台祝祭劇「ニーベルングの指環」の中に出てくる曲に似ているのです。

「指環」はワーグナーが作曲した歌劇で、世界を支配できる黄金の指環を巡る物語です。全曲演奏時間15時間を要する大曲で、序夜（1回目）・第１日（2回目）・第２日（3回目）・第３日（4回目）と、４回に分けて演奏されます。

その第２日（3回目）「ジークフリート」の中に名剣（ノートゥング）を創る場面／Nr. 15「破片をよこせ」があり、その剣を叩（たた）くときの音とリズムが、「豊臣〜」のテーマ音楽の開始部分に似ているのです。これは偶然でしょうか。または豊臣兄弟が「天下を獲る」のと、世界を支配できる「指環の獲得」を掛けているのでしょうか。

このように、クラシック音楽と似た曲は多々あると思います。NHKの「クラシックTV」では、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ「月光」とビートルズの「ビコーズ」や、Ｒ（リヒャルト）・シュトラウスの歌劇「ナクソス島のアリアドネ」とクイーンの「ボヘミアン・ラプソディー」などが示されました。その他で、似ていると思われるものを探してみました。

①バッハ：「ブーレ ホ短調」（1708〜1717頃）

この曲に触発されてＰ（ポール）・マッカトニーが、ビートルズ時代に「ブラックバード」を書いたことは有名なようです。何となく似ているような･･･。

別海町にて今年４月、私主催の第８回P. I. G. ミニコンサートにおいて、大橋ビリー君がギター弾き語りでこの曲を披露してくれました。女性を鳥に例えたのですね。

②モーツァルト「フィガロの結婚」（1786）

モーツァルトの４大歌劇の１つで、浮気性の伯爵を夫人や使用人がやり込める喜劇的な歌劇です。後半に小姓のバルバリーナが、手紙止めのピンを探して歌う場面／Nr. 24「なくしちゃったわ」があります。これに似ている曲を３点挙げてみます。

⑴愛の妙薬／Nr. 23「人知れぬ涙」（1832）

ドニゼッティの喜劇的な作品で、歌劇入門に最適です。主人公が恋人に寄せるラブソング。

⑵エリア／Nr. 21「きけ、イスラエルよ」（1846）

メンデルスゾーン作曲で、旧約聖書に出てくる預言者エリアの生涯。ヘンデル「メサイア」・ハイドン「天地創造」とともに３大オラトリオの１つです。

⑶トミー／Nr. 24の中の「See me, Feel me」（1969）

ザ・フーのロックオペラです。盲目で耳も聞こえず喋（しゃべ）られず、３重苦になった青年の物語です。映画版はＫ（ケン）・ラッセル監督作品で、叔父が殺される原作と違うのですが、これはこれで面白く観ました。

③ベートーヴェン「エリーゼのために」（1810）

有名なピアノの小曲です。これには幾多の類似曲があるようですが、昭和の歌謡曲を２点示します。

⑴「情熱の花」（1959）

ザ・ピーナッツが歌ったハーモニーが美しい曲です。米国人が「エリーゼ〜」を基にした「Passion Flower」の曲を宮川泰がアレンジし、音羽たかしと水島哲が日本語の歌詞にしたようです。

⑵「キッスは目にして」（1981）

ザ・ヴィーナスが歌いヒットした曲で、井上大輔の編曲で作詞は阿木燿子。元気が出る曲です。

④オッフェンバック「天国と地獄」（1858）

グルックの歌劇「オルフェオとエウリディーチェ」のパロディで、この中の「地獄のギャロップ」は運動会では定番の曲です。これをCMで使ったのは文明堂で、「カステラ１番、電話は２番、３時の〜」。

⑤マーラー「大地の歌」（1908）

マーラーはこの曲を、交響曲として第９番とは書きたくなかったようです。ベートーヴェン・ブルックナー・シューベルト・ドヴォルザークが、第９番を作曲した後に亡くなっているからです。それで、副題を「テノールとアルトとオーケストラのための交響曲」として発表しました。全６楽章です。

これの第３楽章「青春について」が、Ｒ（ロッド）・スチュワートの「ガソリン・アレイ」（1970）に似ているのです。浅川マキも日本語で歌っていました。

その後マーラーは、最後に交響曲第９番（1911）を発表してから亡くなりました。「第９の呪い」が、彼の時代まできっとあったのでしょう。

⑥ショスタコーヴィチ「交響曲第７番」（1942）

バルバロッサ作戦（第２次世界大戦）でナチス軍が、ショスタコの住んでいるレニングラードに侵攻してきたことを曲にしたようです。副題は「レニングラード」。

これの第１楽章で、「戦争の主題」が12回も繰り返されます。これをターミネーターのＡ（アーノルド）・シュワルツネッガーが、「ち〜ち〜んブイブイ!!」とCMでやっちゃったのです（1980年代）。シュワちゃんのイメージが強くなりましたが、今でも夜にこの「戦争の主題」を聴くと怖くなってしまいます。

そして、私の中でナポレオン軍の帝政ロシアへの侵攻の映画、「戦争と平和」（1956）に重なります。トルストイの小説が原作で、Ａ（オードリー）・ヘプバーンとＨ（ヘンリー）・フォンダが主演。私は、ヘプバーンの「風と共に去りぬ」と思っています。また、プロコフィエフも歌劇「戦争と平和」（1959）を作曲しました。その最終版の初演を聴いたショスタコは、「あの舞踏会のワルツは天才的だ!!」と叫んだそうです。

クラシック音楽と似ている曲は、まだ多くあるでしょう。ご存じでしたらご連絡ください。